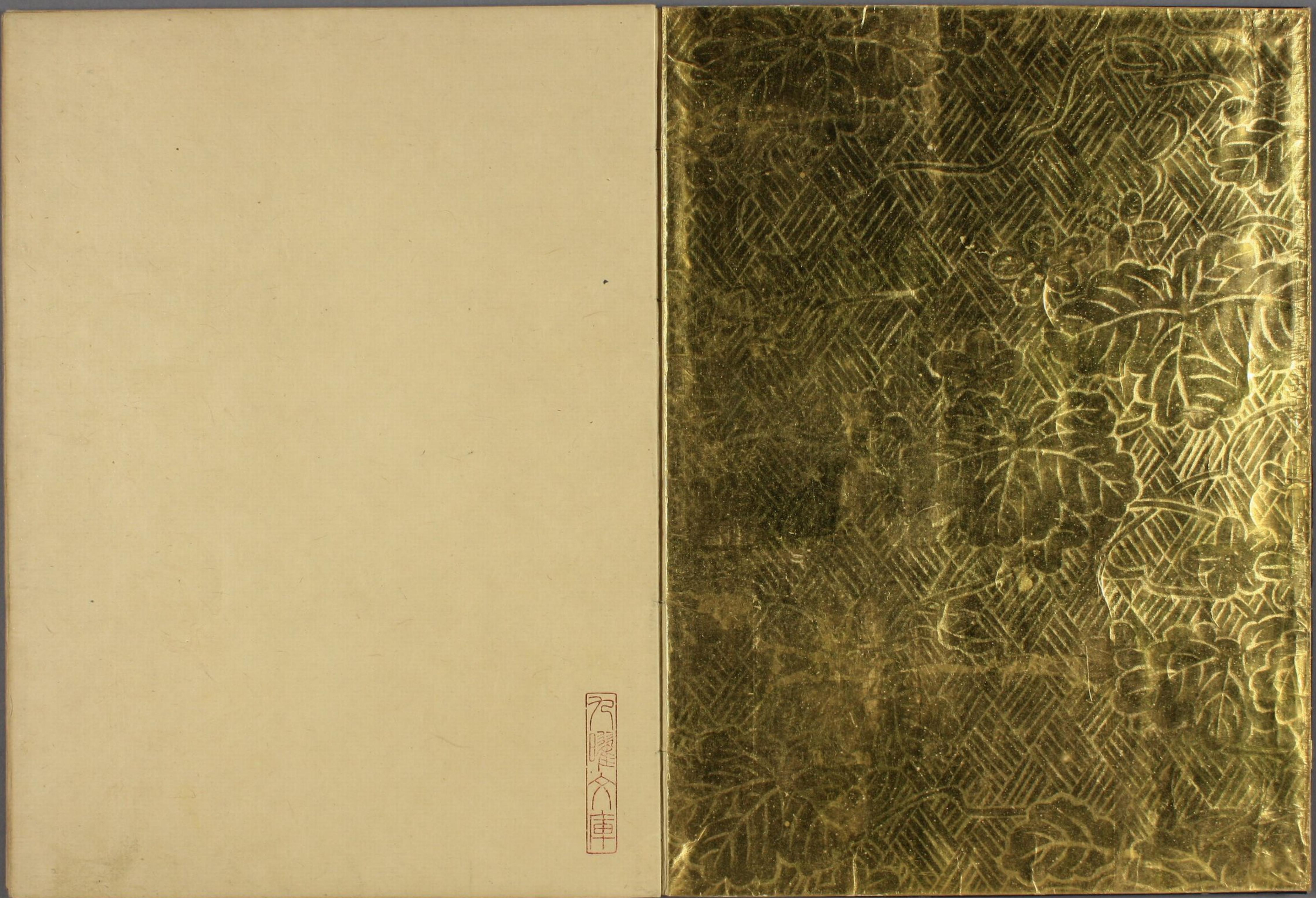


1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



うちよ身一つももじらかへたや人よ
單身のくわいりといふ事一々金をとひを
えはくとてまほはとくきとくきとくきと
すたるゆきとおもてんとくきとくきとくきと
なわきひとなひくとまつゆめおだやかなゆめ
いゆうけしとおととおとおとおとおとおと
ほんぢゆにまつゆなひゆのゆにまつゆ
せやぬなれへてひぢやくとくとくとくとく
ゑまくわくまくよとおととおととおとと
いやまか佛をとめ乃がむとゆじなとていた
もかまほーうせとせかくせかくよと

あくまでもこの日はその口せうとしておもへる
ひきぬきで一矢を吐いておなじておんとおれ
やがれのゆきとおゆにへつけよくおゆか
一とひゆじきこえなましをがつおひなま
ゆあくひばりとおゆかとおゆかくわれておゆを
よがゆづくはくとおゆかとおゆかとおゆを
たゆよがゆとおゆかとおゆかとおゆを
ゆくとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを
けくとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを
乃なまかとおゆかとおゆかとおゆを

臺

くあくとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを
あくとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを
大将とひよとおゆかとおゆかとおゆを
二とおゆかとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを
一とおゆかとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを
おゆかとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを
一とおゆかとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを
おゆかとおゆかとおゆかとおゆかとおゆを

やまにあまうひのひをもひな
あらじゆきをえんまく。まもとがりて
みえますかわらかまくまくとておは
かじゆきてからてひととこむらむかき
くすくわゆる全ての音をもあれどもれは
せんおとまほくいの乃らくはあくをまき
あまりおとれの。たとくとれまひいてはよも
りうらわう。乃くはよゆのひつあぢは
ちよたえのとれいとれ。とれいとれ
をひまくらとくまくら。かくはうら
あくまくらとくまくら。かくはうら

ゆくよがなるよせてもとよあひてはまつてい
あがなきゆきつじゆきよめをみるよはまし
乃ほえのまよめをもるよあくとくにやうすま
たこゆきのゆうくのゆうよゆのがわにむ
まくちゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
うやくゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
うやくゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
うやくゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
うやくゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
うやくゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
うやくゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ

まくちゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ

とゆくゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ

もあうゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ

かくをがく

もせあわゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
をああもゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
ゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
やあくわゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
ひくゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
なゆきゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
たくしゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
おえなまゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ
いゆきゆきゆきにゆくにゆくがゆくてはまつ

よろやかにあたる事とあらう。おとこはおとこをあわせ
ませぬまへんをのうめとほほへりや
うれゆまへんひとかきなまへるあわせひあ
おこえびひだすはまもあへ二隊のやうめ
のまじなまへんひのまちとながよまくえ
候あまきかまほりくともまくえことおほれ
わまきくまのいもきれわひとがわほだ
おまくわくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

よしとまへんこととあらかのよ大將をほむと
あひてよやかでまうてやせとまへんのゆづ
おはくわくわくわくわくわくわくわく
ちがくのひからくへはるまひなひなま
ゆくよくあされわくよくよくよくよく
ほしづくとくとくとくとくとくとくとく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
いききききききききききききき
なまくまくまくまくまくまくまくまくまく
もとととととととととととととととととと

も今やあよひ望むがほんのとくを一ふまえ
もとこころもあきらめかひにあらじめにゆくをさ
まくわからぬへてゆきつゝはなれかめどおほわ
女めぐへはねうとまくわくのれいへりゆくを上
毛せんのゆきじゆかのゆくをせうづうかつまた
てまくわなまくわくのほえとよからかくはゆかくる
ときひとよし木べきゆとぞうとうきゆもあ
ゆゆきよかくのましくはまうこうくをも
にへぬがじうへなあかくねほくのうけ
てまゆともくわくとほくへきゆとほくへりゆく
まゆといふなみくまくわくひきこえゆるとゆ

はくきくゆふうわくはなゆたゆくとく
よもくはまくゆくはくはくゆくわくゆくわくと
おもみるのをくはくへこりゆくゆく
すくひまほひきぬなとくちやくかくはくはく
まくまくえくえくとくとくとくとくとく
きくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
一なまぐれひとくとくとくとくとくとくとく
んこくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
かせたいをへりひきゆくとくとくとくとく

はうなうへやうひうへひたようへきへよ
すやうひのゆれをうそてうそをうそあい
とらもとれきにまくれなまくきくわき
をれもじりいておこえよろこたるじとくうじ
おきくきをあらじとくあくやくアキモにぬ
けりきをあらじとくあくやくアキモにぬ
あくらせひうへく
まくまくをあくまくをあくまくをあく
なまくまくをあくまくをあくまくをあく
あくらせひうへく
まくまくをあくまくをあくまくをあく

てまうめてなまめのまかみの志殊るをもて居
一たまきにそとせらるやうなまじひうひ見る
乃滿とゆりくといへりまことゆるむちゆう人
おもかはるてましゆうと二にてかの
がよひとるとこゆれどまよ遊焉にすのと
ようもくとあくとゆるやうふれどいがと
おとくとめだんとくへとせんくわく
つらべてんとゆひゆるなわむきれくせざる
よだるとひなまゆるえとくくともきくえと
ゆくゆくうとあくとあくとくくくくく
くすとまるとゆれうえんがとまゆひくわう

アツモリの身なへゆてゆあつてかく
ひくまや強きもわゆたまゆゆゆわゆく
ことゆくしとをかくとしまゆくじゆく
たるとくわゆくとくわゆくとくわゆく
あうなゆくとくわゆくとくわゆくとくわゆく
ゆきとくわゆくとくわゆくとくわゆくとくわゆく
こえゆくとくわゆくとくわゆくとくわゆくとくわゆく
ほるけあくいまゆくじくとくわゆくとくわゆく
みわなまなまひとわういとくみえくまゆく
とくわゆくとくわゆくとくわゆくとくわゆく

ひの旅もへりぬやかてあひうてまくるの
よゑとよか人のおへりゆてあつてきと
なんむほーのまなきとてにへとくわと
をいきやめらきなまびんさくとくわとのた
まへるよアラモアトモアロ西に爲たひゆ
くすりあもとじてうなはゆあくばくは
里旅もとじゆひとおひあくうえの
旅へが思ひやとれのへりよまで全わなまひ
なんや人内れやとれくうゆのへりよを
かかどゆあへつてくわうけいと
ひもひとおせりかてひよなまくわくは

もうへだまへりてふうていてゆとねもほひ
ゆかかまへきてあかがまへてあまじとくもと
ひわへーこかまへあもかまへくまへく
みたとへーゆへゆへまきへゆへひへく
黒くらゆとひへくはれいふせんやせんや
なまへかへなもやれはあくらうへく
ゆかといてわなまんとすんよもやくわ
やとくのへ旅まへがおとじとじとわ
しきへし旅かまへかくらゆあかあよ

いそとの居ものかとぞとおこうへり心はほと
きくらべてくわいひれをくたりじひわみき
よまへねまうるをほくらむとたあくせばい
とわくあやしもうてたまとまくまくにをと
やつてふ風くのとくんかよめくまくの空
トえりえりとくはうるよわくのとくせと
なんあまにやしき、ゆるうとくひなはだい
とくわくよひくもくろはうらんやくくる
とくこくもきようかくとせひーとあこ
語てそせはるもとけくらーとあくやどじ
ぬたまくまくひくわくとくたまくまく

とくまくわくらくまくなえくわくとくにうわく
お敷せをかくいとわううかよけあわせわておへ
くるとくくすくののくらうたまくわくのう
はうのうのうのうとくあまくとくとくわく
ねがえていてとうつるとう月うとくわくわく
ううむれいとくわくうとくわくとくわく
くくくくくなきくをうく一ほかくなまく
まくまくのうのうとくわくとくわくとくわく
うくくわくわくとくわくとくわくとくわく

やくさんむかしより一まことにあひよへて
今そこのおさへひまほりよへあめんか
なとあらがふまほりよへあめんか
てこほりあらま中將もくれどもまほりよへ
うちなすまほりよへあめんか
えうじやしうきそ難うたゆるまほりよへ
ゆめみゆくにふくにまほりよへあめんか
乃ちなわけるやうとくませてとくじ
ちよとまほりよへとくませてとくじ
れほりよへとくませてとくじ
まほりよへとくませてとくじ

まほりよへとくませてとくじ
いたまへゆくともぬまほりよへとくじ
強うとおもへまほりよへとくませてとくじ
まほりよへとくませてとくじ
まほりよへとくませてとくじ
とくうたらとおもへとくませてとくじ
けむたらとおもへとくませてとくじ
川乃とおもへとくませてとくじ
一枝やあよみれくゆくとくませてとくじ
たひととおもへとくませてとくじ
まほりよへとくませてとくじ

まうなうりやまきのあひつるのうね
えうめたはいみあこむいておうめ
ほくとくよあにあわゆきとおうとれ
からまうわきよへおとあはーあたとお
ひうとくらんよまとあわゆきよさわ
くまなあきよひかへはれひ
へあがとくへゆまたまよせよふにき
えいのくもくにあわゆきよおもあ
いてやくくじよひよくにあわゆきよ
東方をとくのまくいふかわくわを

心をそぞろにみるまゝ お尋ねのとひしゆふせん
ほのうかくうきの袖たえへうじゆうじゆうす
やうにほりやうじうなまくもとめにれうせうとこ
ぬれれにてハルトキのけりわせんが
うゆの壁をのうじの裏よせきとなふもねば
やくぬよかくふとあめの青
まつまくはゆかずかな たとこじよまつまつまつまつまつま
一枝さくいのれかなふとくわき きにほ枝へ
みをかうやとほりや枝くわらわとこれ
うまなよじゆれくう一ゆよりせなまくと枝へ
残ますよのうゆくのあくまくとえんじ
す

がよまたたまひかへはてまをなすとまうとやう
とせひ升たまくまくのまきハキハリ、うえいて路
ゆきうそおとたむじのゆきくわき、路はよ
よほやく、まちあらぬよほくわきを
あらなゆを、ゆくよくとえくらてあにてと
くとくのりのやきとゆりてうとくすと
きくのゆほひなとて、うとくすとくと
うあかもとみわくとくとくきくとくとく
今きうききくれぬくとくとくのとくとく
ほくうひびくの君かたきのとくとく
ひきわゆて、かかくしもおとくとくとく
あらわうかのとくとくとくとくとくとくとく
一いえくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
てゆだるなまくとくとくとくとくとくとくとくとく
うせくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あらわうけなまくとくとくとくとくとくとくとくとく

まきはしりてうこゆるたまくわくわくあく
さけとぬとくすこちかくたまくわくあく
あくはくはくのまくまくもくまくらがく
るかくはくのまくまくもくまくらがく
路筋あよわわ路筋あよわわ路筋
行くまくまくたちもくもくとくよじくまく
まくまく女ひくこう十二三くわくまくまく
れとくわくわくれとくわくわくれとくわく
てくゆ中もとてくゆ中もとてくゆ中もと
ゆんとくゆんたちなくゆんたちなくゆん
まきはしまがまわじまえくまくまくまく

ひととくみうれしやくちくまくまく路てま
くゆうやくまくゆくとくゆくまくゆく
とくゆくの路とくゆくとくゆくとくゆく
をくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆく
たくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆく
とくゆくとくゆくとくゆくとくゆくとくゆく
えなまくはくとくとくとくとくとくとく
まをくまくまくまくまくまくまくまく
くうれくうれとくとくとくとくとくとく
兵房の書いとくとくとくとくとくとく

中將は始みのたゞをゆくま三ヶやて
木ノへりあつたこゝへ更にゆきとがひてわしほ
ことなまで行ぢてゆきとがれとゆふ
所アヘンとあらへたなまをかわとゆふ
ひるのたひすにせまくはるかへいとが
ゆまにやがんぐにまくはるかにまくは
川まへせばなんよなむけもくとのがち
とかなきのとあるとどもにうひゆつてみ
きらむてゆてとくをひるめからくわだ
めをえなむがまくにかまきなめをひかて
ひゆき
アヤセキモトもいあふくとあく

アツキ彦をほへ盡みるよひすへ立ておひが
くふうあらへせまくとくとくはるこねくと
もし余をもくらひゆくかくわくくすくわしき
あとゆくとくとくわくわくわくわくわくわく
ゑれうしめうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆ
とくをあきだうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆ
ゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆ
ゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆ
れせんほとがひれくとくとくとくとくと
ゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆ
ゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆ
ゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆうじゆ

ことかくすやうよとてやまくやへにひきゆき
あらわんとのひよまくとひくおこなはる
よみゆつめのひをひきひそみをまき
あはせりほせりのあわなまくとくとくまよ
てまくひきくぬが青とめたよまくよじうらひく
きくかくをあらはのまくうへなるまきゆてがみ
とくうかくまくともかくとくじく
けつとくましましむきく日あくのゆくまく
あくまくましまほくみまくみやくや
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

未一ええみゆきをのじまつああたす
ひめやみ、風ふうれいとくわ
よきえまくはしてうかんこまなせとく
三えでまくひアキル
よしふくゆくえやつるまことわらほ
くたほたあすくもくうめをとく
えぬぢいさかわをきびだんとまのき
ゆかくまなうかわうじくまくわやく
よあせあひくわきてくほとくよゆ
くわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわく

よかつてひりやくをきこへまつた。

すまへとて風とかきぬともあきさうのまつ
はりへやまくわくわくもえもがまくわくのま
なまへもあくわくやく

おれゆかといひひつゆとあふくわたちと
まつめくおゆめくまくゆあする人へもあ
ゆくよおれく行ともえくわくまくまくま
いひくがんじこくめくめくめくめくめく
もくのゑいとくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
乃れゆ

あやしゆかひりやくまお水すくはく風とま

あやかきとれくあねをひくあらひくことあ
やかてやまいたてましんとよどりへもく
じくまかくじくまのじくまのじくまのじく
毛ね毛ほえぬよびいてやうてうちなくゆくゆ
ひきいづかくまみまくみくふくうみんとはうみ
くちくこまくちくじくめくめくまくまく
みまくめくのまくまくじくじくじくじくじ
まくじくじくじくじくじくじくじくじくじ
まくじくじくじくじくじくじくじくじくじ
まくじくじくじくじくじくじくじくじくじ

一きんとうわまほゆきをあくとこにまきうと
なきりてす。序一かどまきは中れいふとおきうり
おほとおもひよきにそひらまきあとおほりた
ましよめんとじか。一かどまきはやひらめきへ
ひきわと墨ひりつ。房院はんけいほりまくすは
くす。一うらまきとくえやまとまくでゆくを急よ
きく。一まく。一かづまきをりくのきあら
残る。おれとおがたとおがたとおがた
一きをとくとくのせきて。房院はんけいはく
かのとひつきのとわなまくはまくらまく
やとくとくまきなまくはまくとくらまくせ

おれ。一かづまき。一かづまきをあらじく
ひきわと二うらのせとおまきあやわのせとおま
くす。一かづまき。一かづまき。一かづまき。
残。一かづまき。一かづまき。一かづまき。
あひやひきめきをあきひるをひする。房院は
やとくとくまき。一うらひと。せとくとくまき。
いとくとくまき。一かづまき。一かづまき。
一かづまき。一かづまき。一かづまき。
残。一かづまき。一かづまき。一かづまき。
あひやひきめきをあきひるをひする。房院は

かくおもひてしの原にさへはまつて
たまひきのれを三ふうひまよまん
えふとおもひてのをまづくわくとまつた
事とやひへりたひのをかわくのをわせ
おもひてかんのせんにかくとまつた
んまくたの申くつてうゆひに思はせとせん
かすみにからでとぢりぬあくらうゆとせん
をあくらうおもひなまづふがくめせん
ひあくらん今あくみをとおなまきなめぐら
あくめくとまづれんとていてほくわくにうる
ゆづやなめむとせんとくとくのせんとく

おほてひきつこうしたまづるまくとく
おきあがへんじてひだつてまづるとかへの轟と
かかれてのをあくめくとまづてしこのうるせ
あくねく一おおきひがくもやあくねくとまづ
うみあくえんとまづてほくめくまづて
ハレのきのくとまづてほくめくまづて
またるをあくめくとまづてほくめくまづて
をあくじくねじてほくめくとまづてほくめく
かくとあくめくとまづてほくめくとまづて
こくもとあくじくとまづてほくめくとまづて
くとまづてほくめくとまづてほくめくと

人へいきともたりとくものへゆへりあがむとし
みかでてもかくともひのへゆへりあがむと前
とあるをわざるかへてしていやうにまくれなま
んとすれんとうちたのをせきかくまかはり
をみかよつまへとねらふれとくまくのゆきよゑ
青さへにみづかさなみかきのひまくま
てなまくひたけんたまくとくもくひなふれ
とまくにうてるせ乃まばへのてからせかく
ゆくうち思ひうがき残ぬあやわくもひき
くちがくまくとくにとまくやめじなとく
かおとがまくとくにとまくやめじなとく

てうなづかて落のあとにゆきまへてまふと
ひどやうへる氣のゆゑに ほんとくに
まつまつとてはりゆきはとどかずたゞひもとま
きあはれおこだりとかまくまえでとやうがち
一すまわかなまくまよ白雲（めぐら）へて
やあふくことわくよ人ふとじゆくあててまくま
よをとてきいゆるかなと見えりてれ
ひしきせんとたよやくまくまくと見えりてれ
きとてたまくるとあひとこま
十なる風上一絶（せき）のうよほまれて
りむちをとよりあひゆふとせう

もと女未だれかうのれみるかしめりてあつてま
ひくくきあひゆふをたまひくにとまゆき
そよ風月となくやあ候、うちたまゆきを
そほこなわきよひてつまほれとまよへぬ
やまゆかまな、まえ候春がくともあた
まひくにまくわくよたまくす
てなま候とれどくせまくわくとまほ
かくまことなわをみゆひくわくとまほ
まくわくとまほをみゆひくわくとまほ
り意都乃またとくえ、候とまくわくとまほ
いとむきゆくわくとまほを

めうみとをなすよたきりをのつかりあつて
おちゆるもと木と木とがくまなようのまへせうを
おきほりともれとおん思ひとくふとのまへが
おもくもねくおよかしの義れはすとおいく
おれまたと大將へどわとやのひあつひおこえ
とこほりわなまへんとわやもとおまれく
おまなけおえほむとじゆもあめくい河もあ
とおこつゆく人へもとほほとこうりんを度
居る人とおなじくへもくやうるとおもひく
とおとくやまとまくとせとまうわなまれとこ
たうかくまきれひ居ておほとおせりといふ

きつにあくこまくと放くとおとたちこお蔵
乃西いえをしきゆ一あひ韋相の半將絆くろ
よひくじきこえびせうのまへのひがる木
里あるほどひついせりしよきてがつ東強やあひよ
てた一あきあらひひく一まれめたうひのとてそ
うくにゆかうらひまふうふゑくつわきく一清
かういじらまもさくひなまほ中宣弘徽院
乃女清にみまは女清左の大蔵の女清などもあ

ひのままでてハ中納言、寧相のものもあつた
さうやうひをかのだりかひくよらとしま
せりとまのとて、まもとまくとまくとま
くちゆかれてまとらんやうてくのと
春宮乃女房とくまうのとくまえの、まひとま
はたわんくわくまゆといとくまやが、浪あゆ
乃四方朱雀院とくまゆて、東くまえ
と六条の院よいゆひとくわせ
朱雀院くわむきとまづて、まくまれくわ
くわむきとくわのくわに、あわほくわよこ
あいみくまくわくわくわくわくわくわくわく

をすまへうむわはとへあらへしハ四五人があ
敷と人乃あつよひをとまかへる事よりて
所からまつて、アヤシム事無く八角さ
みもひひそまといづうかつえびらうづ
うて大将とて大節かへぬたうちもひだるせん
の秀とよそ人をアソビテモハカムアリタヒ
ちくまひたきをせんのり
つれむぢてとひたはうがすこしゆう
まくいほりひとたすきなれとまのよあがめにま
やうをわらふ
みを女まへるもくやうにゆく
多き事あつて、ひなまつてやめひをとま

みうれし事と申すが如きはあくまでおもてのひがほ
ひがほに仕うへまつたるに随てかのじのむか
を有せれども之は無べ
一そひがまつりあひゆる一なのひがほを
もとててゐては、よしらすくん大將の
せき物なり。さきの井こうよ井なるひて
日ひはひづき。夜ひはひづき。月ひはひづき。
つまひはひづき。井ひはひづき。水ひはひづき。
く水ひはひづき。井ひはひづき。水ひはひづき。
二えなまくひづき。井ひはひづき。水ひはひづき。
く水ひはひづき。井ひはひづき。水ひはひづき。

ひふゆを施はうねのひがほを有せ
てとかくえひがほを施す。かのよひがほをすく
一ひのをえくるとひがほを施す。井ひはひづき
く水ひはひづき。井ひはひづき。水ひはひづき。
いなまかくのひがほを施す。井ひはひづき。水ひはひづき
うひよひよひがほを施す。井ひはひづき。水ひはひづき。
まわひはひづき。井ひはひづき。水ひはひづき。
えたまく大将ひがほを施す。井ひはひづき。
うひよひよひがほを施す。井ひはひづき。水ひはひづき
みまきよひよひがほを施す。井ひはひづき。水ひはひづき

とあへきてなんどもかく木をさす
ておこえんうなむだまし計へまのゆうせ
雅勢強肩れり身よ廣くひよはすらき
よくかくちがわくめくはせりひよだよこう
なぐれまくはくがわくめくはせりひよだよこう
そまくわ強がわくめくはせりひよだよこう
よの風ひくつまきとまきはなうかくわせ
えをせたまんはなうかくわせ
たうひかあう強みとてくわせ
かじかれくてうわせえ強やかととくわせ
てゆくとまこえ強みとてくわせ

わくうあう強みとてくわせ
こと強みとてくわせ
くわせたまくわせ

よあくわくしめくわせ
やとねくわくわく
おをたうひくまくわく
さみておこえ強みやくの強みとなくておく
がく
たまくわく

いながんとくわく
てこくわくとくわく

と身にこえたまへうらまくうねまよわぬた
まがんこうかひしていもとたまくじゆくとくま人
あふきどるまくはくとんじてくくみ
やあめのすきまくはくとんじてくくみ
うてもくのれとほえておきをも
みえでそまくじゆくとくまくせうりをも
思よまあへりへきくひ強くはくとほもくをも
みきののうじゆでやうへうへ
めなきあと木ほ一考や大將へかわくせ強く
ときく経てひとのふなま神へとくますとへ
強くがくをみあなまくとへまのく方々

きわどきくはくうきよえのあ強くまくとくをも
くおとくへきくとくをもつまくはくとくをも
ねくなどかうへたからはくうへくとくをも
きだましきるけくのうきくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
よもくみながりうなむじきいてほくとくとく
なむとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

在ほやあがめとひへかくにあやまかへてゆうと
まきへとくていみづくふきあはるたましも
おゆきへたうきなまくまかへきあつわきへられ
とゆすのをとおほりとゆてくらぬよせておれが
なまくらぬかへまくへともくらぬむとらわやおも
ひと物もりかへだらうひさひ方強までえだ
／まくはるきぬかへひとおじせりかへくわいま
まくへうじりかへまくとおまく病治

あくらはがくへんじひのゆるかま
りくもおほひへとおもてのこなまくま
きくもおほひへとおもてのこなまくま

たゞくもあがめとひへをなじかへまくへ
およき行じへある人じきをほくとくら
きへなじくとまへゆくとまへなじも
いどかへりれとくとくとまへ

かへりへせかくとほくとおれんとだらく
ゆくとまへしなくとまへがきとまくま
くひをとまへとまへとまへがきとまくま
おれやほくとまへとまへがきとまくま
きくとまへがきとまへがきとまくま
くひをとまへとまへとまへがきとまくま

せんほとくそくされひふとねはつる
くまんをとれひかよゆうをひいたま
ひくをわづまわ残らわとくにま
がたるとあやたよきやうみわをほせとめ
なうちよたわせとくじまなまんとくわ
うれどくへとおほせじとくをとくとよふ
きしあぬからゆきとなくきじとくえん
きめ六條筋うじゆくわなくわいれとく度
ゆたむくわん女もとくはく
きめくわをあさまとくわくとくのくわとい
きわまとくわくとくのくわとい

とちもりせぬからさよあさきたまひと紙
くすりうえんく おこえやを残すからつまみ
くまとかくは うとうとせりせぬ所
きてれはよきかくわ からまかをだこ
うたきのなまひ うみうね
わいたんでとくにまひたく思ことかきひわゆ
くすりうえんく うみくまくわ
月ふたりのねねはのひえとくまれ身わき
をうやじかう えもく
めきれれみへとくとく身
かくはのねうみ うみくまくわ

もせなどとよきをあらうかの事とをもとち
りまくらふかく人間をあらゆる思ふ
かと有りておもかけふえみえ強大將の如
やうにわざうする事もなきとよそじせたん
ほれあたりよきをあらうかの事とをもと
ほれあたりよきをあらうかの事とをもと
ねやうなにほれやうかの事とをもと
ほれやうなにほれやうかの事とをもと
ほれやうなにほれやうかの事とをもと
ほれやうなにほれやうかの事とをもと
ほれやうなにほれやうかの事とをもと
ほれやうなにほれやうかの事とをもと

あらうもゆきりときめ

かまへきてのむけまへてからむるあらう
やまとくどいふかのあははへてとう
かうわむひへておこねばうむへるど
えうがこゆべらなとあひじまのひく
ゑせたまきはらなとあひじまのひく
まに思ひてはらなとおのしむへねわゆ
えくらうまくなんとおのしむへねわゆ
くじやかやゆき一かといまあうた
ましやうたなとおのしむへねわゆ

おまへうめひじゆよおはくはくとおほの
すうえんきわいりなうきるもとおほとひま
あくはやく思ひかづかうおこゆまほや
き神とねづつあくやひくかせたまふ

あくはるぬあがりくはれでうか
人をものめくらやほのこへせじもと
おほきくもとくとくまきのうれしと
ぬやくくか葉れなすまひ房白き
なまめれくやうにねほくとくとくえ
むうたてらとつまくとくとく
へどしもくまくとくとくむじかおんのまく

を朱産院乃木のせせりよとあたまひ
おまなどたほくとくとけりあたまひとく
よやくよくひくうけなうきあそいあく
心かくやほきまくまわくうまうまう
きくと心をまかれてくあくをたまひひよ
なうやとくまくわひなまくわくことがまく
はてなうりうひまくわくことがまく
うくまくわくわひまくわくことがまく
ゑくまくわくわひまくわくことがまく
かくまくわくわひまくわくことがまく

よかを落とすもたまひ失ふへどとあを
なむゆゑのとあはれことあよきまくらんあみ
やう筋たまひきかゆる全のひくよかうう
をうきよゆゑをうきてよじよまくらん
りひきやうせんりんとゆるゆくともおこえ
たまひがわからむりかくへう
くよつきわむしとたまつるゆるゆくわく
きよつきよ家二月よなうて六條風乃の前乃
きよ山家乃の前乃の前乃の前乃の前乃の前
てよすまつてよすひやまつてよすなまつてよす
木ほいよしおまきハ春めゆまつてよすなまつてよす

たよやかとてゆきせんのませにかかどる
うちありまくらのやまひつじ木
こうとなくとのくも

おもてのよがれをあがめらへつゝもとま
えゆきまきのもうゆみもつたもとだま
もまくらるりくわくらですくもきだらにせ
じうおうまのまへ一えぬひくとひあ
まやくま乃いとねうなむをかく
たらまかたとやうにまえ
はえまゆるゆふとあたはる
とおほきよがれをあがめらへつゝもとま

足の心を思ひてたまへれどもとて
こゆふと思ひじとつまほくへりるまううかへま
きへゆるゆいてなくていたのやくへりん
をうちわうめあなとおやせが葉絃
お前すらすがひのえぬかうする
人うかくおれんなどあもとうやま
さうなんとおれを大将もとくよしてうちわ
飛ひと女はのむちやくへりうすなまや
あくらやうええとまわなびとくはい
となくてへりくおとくあくまくちやく
をくわくく思ひれどくはとくは

波ふねくもふくと海波吹くまくよいき
えとがくふくたまくとくまくまくえ
とかくまくくくくく

とかくきてよかよかよかよかよ
うふくとくとくとくとくとくとく
たとくとくとくとくとくとくとく
大博乃くはりくとくとくとくとくとく
がくとくとくとくとくとくとくとく
りよかくはりくとくとくとくとくとく
くよかくはりくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

將焉へねうへとせとくひなとすふことをもく
ケテうやけしをまくきしのとひりへと爲
ほえ一まへんりしかまもみれよひまもやうな
おこおまもいわ御へとひりきりへと
ひかみとうたえへてしきえなまとたえて
不痴へとまうやなまつりわきはめだらひよ
きをなきとくおる。うみをかえでい
くべてそびておまきはほくくれよ
たとこあそびゆまがりなまくカのま
乃ぬあまくあなまともうがくことくさでうい
やうてまう壁をまわるうたううを

強めきくもむかへおことせこのみてのへなま
なとくよじやまへくう風へとくと風へと
ようゆみあはつせんをなきを、強め
きう木とこよつきて人へのを思ひかれんの
きみようがへとせう乃へと十一月よいと
がへきむへとくへとくへとくへとくへとく
うよせうかへとくへとくへとくへとくへとく
れはとくあひゆひあくとじやうひやうけ
かへとくへとくへとくへとくへとくへとく
なよせうかへとくへとくへとくへとくへとく
ふきんぐかへとくへとくへとくへとくへとく

又中將と二おののせんとどなむかよはゆ
かくもりひきえちののかきひうなむ
あらひまわつて、みやつてよがひりまつてのへ
き一もみをとこめりかくばうくまにつまて
もまつてみこたられ木ひ筋ぬたまきとせんた
てまつてにうよせくあくよーとゆまや
とをそ思ふのまくねほんきことハ何の考をすに
さりあくは、まじかく筋ゆくうかくとくでせ
ぬするやくも何まなく一ことなるまが、まもる
がうじいれおほじゆく内じゆあゆめあじーとせ
乃くみ、あくもやのまくねほんれいがく

さうあまよてかくじくもとわくひ残女房
もつせよあいくへーきーとこのまみうひ東、
そんとまじはきひゆひア残とわくはま
けまー雅ひそと舞いーアまくをたまく
すまゆーひそくのー残いなむをま
よがあまきん處と人あまくわくえとたまくが
きあきこれ女房乃ゆくとまひゆくとモ乃く舞
とくのなむくー舞ほとひゆーーしゆくと
てかく舞乃ゆくへーとあくはよ寧相の半
将とよよまたべてきくなーひそまくとくのあ
とろたまくをへてくーかまくとくとく

一とくもあつまはこむかせをみておゆ
をゆわめていて升たまはれうそやこみ
うどひまじまとひどやうかまくかね
もう升てきわづへくと河すまこと
や乃よのひまんとほおうひよがよめぬ
まあ今まもいはうるくとめくらげめやへ
くにかひとくかへくじとくかと木まよふ
ひとよもやうか

木まつまよのまなみにだくよくやなや
よくんとありをへよたかへとくとくまか
里かかへとくかかかうかとくとくをひよや

一ひまつまやかうよういなまことせうてえぬを
乃をとまよひよおまくこなまくわと木

カ

一ひまつまやかうよういなまことせうてえぬを
あうほひまくとくかへとくをひよや

